

かみひこうき

第57号
志貴野ホーム
令和5年9月発行

☎ 939-1272

富山県高岡市下麻生字天洞 5340

TEL (0766) 36 - 2600

FAX (0766) 36 - 2601

URL: <http://www.shikino.or.jp>

E-mail: shikino@orion.ocn.ne.jp

志貴野ホーム

検索



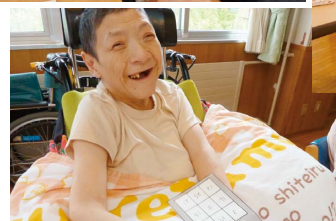
最新情報や懐かしい
記事があります♪



レクリエーション・夏会食が 開催されました!



クイズ大会



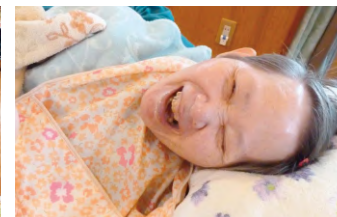
ビンゴ大会

令和5年7月12日(水)レクリエーション・夏会食が開催されました。昨年同様に新型コロナウイルス感染拡大防止のため、利用者と職員のみとなりました。

クイズ大会では利用者の皆さんで答えを出し合ったり、ビンゴ大会では景品を想像しながらワクワクしたりして楽しんでおられました。

昼食会は、冷たい麺(氷見うどん・八尾そば)の選択や、トッピング(とろろ・温泉玉子・キムチ・味付いなり)の選択、ころっけのコロッケ家さんから3種類のコロッケを取り寄せ、皆さん美味しく頂きました。又、ビールやジュース等のお好きなドリンクも喜んで頂きました。

夏会食





お花見散策



天気が良くて
気持ち良いな



桜がきれい



暖かいな



趣味活動 6月の壁面飾り作り



どんなデザインにしようかな…



みなさん上手に作ることができました☆彡

中田保育園との交流



園児のみなさん、ありがとう!

趣味活動 ボウリング大会



ストライク目指してーえいっ!!!



いっぱい倒せた!



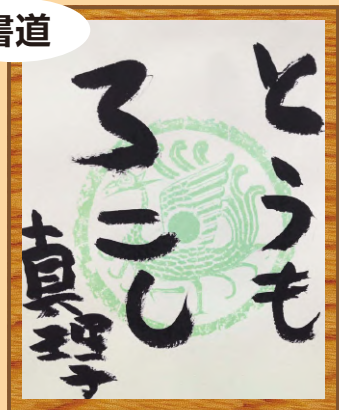
爽快!!



利用者作品紹介

志貴野ホーム

書道



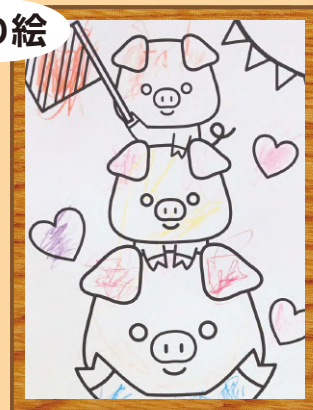
「とうもろこし」
作：山崎 真理子

書道



「虫」
作：田中 健二

塗り絵



作：堀川 義人

志貴野ホーム障害者福祉センター

うちわ



「ひまわり」
作：石浦 美也子



「蓮」
作：海内 友香



作：利用者作品

高岡市障害者福祉センター

壁面飾り



「願いの木」
作：利用者共同制作

陶芸



作：湯浅 真

フォトギャラリー



お花見



陶芸

何をつくろうかなあ…



リハビリ
頑張つとるよ~!

リハビリ



3B体操



令和4年度 苦情解決・虐待防止委員会「ほたるの会」事業報告

1. 苦情対応状況

受け付けた苦情はありませんでした。

2. 苦情解決体制の啓発活動

令和4年度は2月に所内研修を行い、職員間で身体拘束を適正化する知識や技術を再度確認しました。

また、利用者さんへの処遇に対する目標設定を行い、定期的に振り返りを行い、声掛けや接遇力の向上を図りました。次年度も同様に行なっていく予定であります。

今後ご意見、ご要望をお寄せください。よろしくお願いいたします。

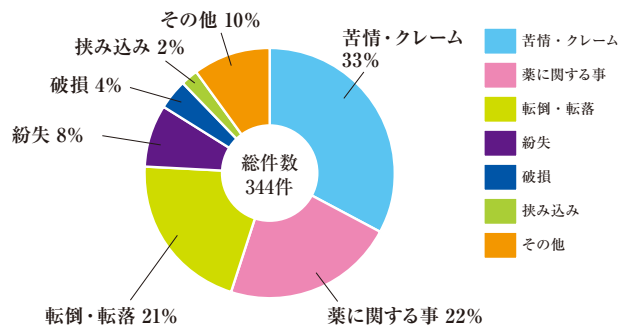
ほたるの会一同

令和4年度 リスクマネジメント委員会活動報告

苦情クレーム	33%	114
薬に関する事	22%	76
転倒・転落	21%	73
紛失	8%	27
破損	4%	14
挟み込み	2%	7
その他	10%	33
総件数	100%	344

「薬に関する事」の内44件は、服薬ミス関連

令和4年度 ヒヤリハット・事故内容別割合



令和3年度の目標であった「薬の飲みこぼしを減らす」はできたが、服薬関連の総件数が減っていないことから、令和4年度は「服薬介助ミスを減らす」という内容で取り組みました。

服薬介助ミスはおおまかに、飲みこぼし（薬の落下）、飲ませ忘れ、誤薬（飲ませ間違い）の3つが存在します。志貴野ホームでの服薬介助ミスの97%は、飲みこぼしや飲ませ忘れですが、もし発生しても気づいて服薬をしっかりと行えていることが多い状況です。

また、令和4年度は「薬に関する事」が増加した原因として、服薬場面の危険予知訓練（KYT）を行ったり情報共有を行う等の注意を促すことで、薬への意識がより高まり小さなことでも職員間で情報共有をするために挙げられて件数が増えたと考えられます。

次年度も基本的なコロナ対策を引き続き施設として行っていくとともに、利用者の方の健康維持に関わる薬に関する取り組みを大切に考え、引き続き「服薬介助ミスを減らす」を目標に取り組んでいきます。そのため、今までのKYTや問題点・対策案の情報共有の円滑化に加え、追加対策として、毎月の服薬介助ミスを減らすための声かけを朝礼時に伝えていきます。そして少しでも薬に関するヒヤリハット・事故を減らしていけるよう努めて参ります。

リスクマネジメント委員会一同

令和4年度 利用者自治会活動報告

令和4年度は自治会費で会食を楽しみ、会員同士交流を図ることを決めました。次年度実施予定です。令和4年度も職員やその他多くの方々のご理解とご協力を得て無事に任期を終えることができました。心より感謝申し上げます。

自治会役員一同

『季節はすっかり秋めいてまいりましたね。皆さんはいかがお過ごしでしょうか？紅葉が美しい公園で散歩されたり、秋の味覚を楽しまれたり、心地よい風を感じながら読書を楽しまれたりと、さまざまな過ごし方があるかと思います。季節の変わり目は体調管理が難しい時期でもあります。冷え込む日が増えてくると、関節の痛みや筋肉のこわばりが出やすくなるかもしれません。そんな時は、温かいお風呂やストレッチ、マッサージなどでケアをしっかりと行い、健やかな秋を迎えるようにしましょう。秋の訪れとともに、新たな活動やイベントを通じて、施設利用者の皆さんと共に豊かな時間を過ごせることを心から楽しみにしています。』

編集後記

上記『』内の文章は、最近話題の大規模言語モデル（LLM）を活用してAIにより執筆された文章です。いくつか不自然な点が見受けられるかもしれませんが、これはAIが自然な文体や感情を完璧に再現することが難しいためです。AIでは、人間の感覚や経験に基づく表現や表現力には限界があります。AIは単語や文章のパターンを学習して生成するため、感情や創造性についてはまだ向上の余地があります。また、情報の信頼性や透明性に疑問が生じる可能性もあります。

AIは情報処理やデータ解析などの分野で高い能力を持っていますが、人間の創造性や感性、倫理的な判断力はAIにはない特徴です。したがって、人間がAIの生成物を慎重に評価し、適切な編集を行うことで、より価値あるコンテンツを提供することが可能です。

AIがテクノロジーの進歩とともにますます重要な役割を果たす一方で、人間の存在と判断力も欠かせません。人間とAIの共存を図るには、AIの限界や弱点を理解し、人間の専門性と経験を活かした上で、適切な役割分担や協力関係を築いていくことが重要です。

…と、長くなってしまいましたが、実は、上述文章までが、AIを駆使し【障害者支援施設の職員になりきって編集後記を書いた後、その文章がAI生成されたものだと明かした上で、問題点を指摘し人間との共存可能性について述べよ】という指示（プロンプト）のもと生成された文章です。

多少の手直しは行っていますが、一瞬でそれっぽい文章を仕上げてくれるのだから、世の中が大騒ぎするのも納得です。

これだけ便利なのだから、人間の仕事を奪ってしまうのではないかと囁かれることもあります。私自身は、AIは人間に取って代わるものではなく、人間を拡張するものだと考えています。上手に付き合っ、世の中の変化に適応していきたいものです。